

笹川記念保健協力財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2019年 2月 14日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
会長 喜多悦子 殿

2018年度地域啓発活動助成

活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

一般市民や医療者に対してのホスピス緩和ケアの啓発活動

活動団体名： ホスピスタウン清瀬ネットワーク

活動者（助成申請者）名： 堀江 亜紀子

I 活動の目的

清瀬市は、緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、在宅ホスピス、緩和ケア外来などのホスピス緩和ケアに関する選択肢が多数あるが、今までの活動で行ってきたアンケート結果をみると、いまだに「緩和ケアはあきらめの医療」「麻薬を使ったら終わり」という誤解を持っている人がいまだに多く、患者は症状を我慢してがんの治療だけを行っていたり、緩和ケア医療を受けず、苦痛の中過ごしている患者も存在している。

自治体や市民の緩和ケアへの認識をあげ、「早期からの緩和ケア」を実現するために、6年前より、清瀬市内の5つの医療機関と共同で啓発イベントを行ってきた。2016年度は、小冊子「緩和ケアってなあに？」の作成、2017年度は地域の医療者やケアマネジャーに対しての緩和ケアの認知度調査を行ったが、緩和ケアについて正しく理解できているのに、具体的な制度や利用するタイミングがわからないために、うまく利用できなかつたり、さらに知識を深めたいといった声が多くあった。また2017年度に行った講演会で、「がんケアリングサポート」をテーマにしたが、清瀬においてもこういったサポートが必要だという声が多かった。引き続き、ホスピス緩和ケアの啓発活動を継続しながら、地域に根付くサポートの啓発活動を目的とする。

- ・ ホスピス緩和ケアについての啓発
- ・ 清瀬市におけるホスピス緩和ケアのサポート体制の認識率と知識の向上（緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、在宅ホスピス、緩和ケア外来、訪問看護、がんカフェなど）
- ・ 清瀬市におけるホスピス緩和ケア医療機関の包括的ネットワーク力を高める
- ・ 世界ホスピス緩和ケアデー、日本ホスピス緩和ケア協会のホスピス緩和ケア週間、日本緩和医療学会のオレンジバルーンプロジェクトの一環

II 活動の内容・実施経過

活動助成によって、下記のことを実施した。

1. パネル展示「ホスピス緩和ケアってなあに？」 * ウィッシュツリー

- 1) 2018年8月17日～10月27日 東京病院
- 2) 2018年8月21日～9月2日 クレアギャラリー(清瀬西友4階)
- 3) 2018年8月21日～10月27日 信愛病院
- 4) 2018年8月24日～10月27日 救世軍清瀬病院
- 5) 2018年9月4日～9月25日 複十字病院
- 6) 2018年10月1日～10月5日 東久留米市役所 屋内ひろば

「清瀬ウィッシュツリー」と題し、各パネル会場で来場者にウィッシュリーフに願いを記載してもらい、ツリーに飾ってもらった。また、願い事の一部を講演会場にて PowerPoint で流した。

2.講演会の実施(講演、コンサート、シンポジウム)

日時 2018年10月20日(土)10~12時

場所 東京病院大会議室

内容 1)講演「最期まで安心して自分らしく暮らすために

～医療・介護サービスを上手に使おう～」

講師:中島朋子(東久留米白十字訪問看護ステーション 所長)

2)祈りのコンサート:北川辰彦、信愛病院・救世軍清瀬病院の音楽療法士

3)シンポジウム:「安心して暮らすために医療と介護の連携」

司会:中島朋子(東久留米白十字訪問看護ステーション)

シンポジスト:高世秀仁(東久留米なごみ内科診療所・がんカフェ)

訪問看護師

ご遺族

3.ホスピス見学ツアー

日時 2018年10月20日(土)1日目 13:00~15:30(一般の方対象)

2018年10月27日(土)2日目 13:00~15:30(医療関係者対象)

場所 東京病院→救世軍清瀬病院→信愛病院

内容 病棟見学ツアー

4.小冊子の配布「緩和ケアってなあに？」

関連機関より希望を募り、小冊子を1000部配布した。

5.医療・介護関係者の「がんの看取り」を考える研修会の実施

日時 2019年1月26日(土)13時30分~17時

場所 東京病院大会議室

内容)講演① 残された時間とプロセスの理解

講師:高世 秀仁(東久留米なごみ内科診療所 医師)

講演② 適切なケアと、その人の希望を支えるサポート

講師:中島 朋子(東久留米白十字訪問看護ステーション 所長)

講師:上村 貴代美(信愛訪問看護ステーションほほえみ 所長)

講演③ エンゼルケアの方法

講師:木村 光希(おくりびとアカデミー 納棺士)

6.広報活動

特設ホームページの開設

関係医療機関や在宅支援事業所などへチラシの送付

7. 質問・相談対応

アンケート用紙を利用して、必要がある方には質問や相談対応を実施

Ⅲ活動の成果

1. パネル展示「ホスピス緩和ケアってなあに？」

緩和ケアについて説明しているパネルを、6つの会場で展示。展示の来場者数は不明だが、多数の方に見ていただくことができた。願いをリーフに書いて木に飾るウィッシュツリーも実施し、多くの方が参加した。



①クレアギャラリー



②信愛病院



③複十字病院



④救世軍清瀬病院



⑤ 東京病院



⑥東久留米市役所



⑦ウィッシュツリー

2. 講演会の実施(講演、コンサート、シンポジウム)

講演会の参加者数は64名であった。

アンケート(回収率 54.7%)の結果から、91%の方が「良かった」という評価であり、69%の人は「ホスピス緩和ケアに関心がある」という来場理由であった。参加者の49%が一般の方であり、医療関係者や学生の参加も見られた。「在宅で看取りをされたご家族の話を聞くことが出来て本当に感謝しております。退院後、どのように思い、生活されているかを知ることが少ないので、今回のお話を大切に受け止め、今後の看護に役立てていきたいと思います。」「医療関係者が患者・家族の為に一丸となって取り組む姿勢...そのことがどれだけ患者・家族の力になるのか改めて考えさせられました。」といった感想が寄せられた。



講演会の様子



講師：中島朋子
(東久留米白十字訪問看護ステーション 所長)



シンポジウム：「安心して暮らすために医療と介護の連携」

3. ホスピス見学ツアー

多数の申込をいただき、2日間で参加者は99名であった。40歳代50歳代の方が参加者の約半数であり、アンケートにて今後も同様のツアーに「参加したい(お勧めしたい)」と回答された方が93%であった。「患者様に紹介するのに、実際に見学をさせて頂けて、話をしやすくなりました」「同じ緩和ケア病棟でも病院ごとにだいぶ違うことが分かりました。患者様ごとに合う病院をお勧めしていきたいと思います」「病院全体がとても和やかで、時間の経過がとてもゆっくり進んでいるように感じました。穏やかな時を過ごすことが出来る、とてもよいところだと感じました。」といった感想が寄せられた。



4. 小冊子の配布「緩和ケアってなあに？」

小冊子は、パネル展示、講演会、研修会など、各会場で必要な方に配布した。また、各医療機関にも配布しており、緩和ケアが必要な際に説明をする資料として活用されている。

5. 講演会「がんの看取り」を考える研修会

2回実施する予定であったが、自治体の研修会と日程が重なり、1回の実施となった。(計画修正報告済み) 広報期間が1ヶ月であったにもかかわらず、事前申し込みが多数で、関心の高さを感じた。参加者数は151名で職種内訳は、ケアマネージャー73名、看護師43名、介護士14名、医師2名、事務員3名、リハビリ2名、MSW7名、一般5名、その他2名であった。



IV今後の課題

緩和ケアの啓発活動は、当事者になってみないと必要性を感じないと思われるが、必要になった時に、情報が手元に届くように、啓発活動を継続する意味があると感じている。また、一般の方だけでなく、医療・介護関係者も悩んでいたりと、不安に思っているということを知った。がんの看取りは、スピードと地域の連携力が要のため、今後は研修も定期的に行っていきたいと考えている。

V活動の成果等 公表予定

日本緩和医療学会、日本死の臨床研究会で発表予定